

学校教育目標	～挑戦・発信・錬磨～ ○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】 ○人を思いやり、自分や周りを大切にする心を育てる。【徳】 ○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】 ○社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】					
	創立 50 周年	学校長 石室 利真	副校長 竹内 一実	3 学期制	一般学級：13	個別支援学級：4
学校概要	児童生徒数： 人		主な関係校： 希望ヶ丘小学校 善部小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	南希望が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○課題解決力・発信力・コミュニケーション力 持続可能な社会の実現に貢献する力 （「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」） ○自己肯定感・協働・挑戦する気持ち （「学びに向かう力、人間性等」）	南希望が丘中 希望ヶ丘小 善部小	自分をとりまく人々と積極的にかかわりを持ち、自ら考え挑戦し、 ともに学ぶことができる子ども ・9年間のつながりを基盤に、生徒が意欲を持ち、相互に学び合う授業づくりを進める。 ・自分の意思や思考をもって行動を選択し、自分の考えや気持ちを表現できる子どもの育成をめざす。 ・勇気をもって挑戦できる子を育てるために、失敗を見守りながら気づかせ自己効力感を育てる。 ・相互理解を深める機会を設定するために、小中合同授業研等を実施する。（年2回） ・子ども像を共有しながら児童生徒指導や学習指導等の情報交換を行い、共通理解を深める。

中期取組目標	○学びを校内に留めることなく、様々な人と繋がり、生徒自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働してともに学び合い、社会に発信できる「学び」を充実させます。 ・1、2年目は、一人ひとりを大切にしながら、仲間と協働してともに学びを深める授業、行事等を展開し、その成果を発信できる場面を多く設けます。 ・3年目は、学びを「社会」に広げ、ESDの活動を通して、課題解決の方策を他者と協働しながら、自分の意見やアイデアを進んで発信できる力を育成します。 ○学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育みます。 ・3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ学校を自分らしく過ごせる「場」とします。 ○学力向上、生活習慣の改善のために、横浜市学力・学習状況調査、体力・運動能力調査のデータを有効活用することでカリキュラムマネジメントを推進し、個々の資質能力の向上に努めます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①本校の実態、市の学状のデータに基づいての授業改善、授業力向上を目指す。生徒が自ら授業に参加し、自分の考えを発信できる授業になるようICT等をさらに活用して生徒が自信をもって臨めるようにする。
担当	学力向上推進部・ICT教育推進部	②メンターチームと協力し、教員間の授業公開週間を設定し授業改善に努める。
徳	道徳教育 人権教育	①小中ブロックで9年間を見通した人権教育を行うために、小中合同での人権に対する研修や各学校での取組の共有を図る。 ②道徳の授業前後の日常で子ども一人ひとりの成長の様子を見取り評価していくことを大事にし、学校教育目標や他教科との関連も意識し、授業改善に取り組む。
担当	道徳・人権教育推進部	
体	健康教育 食育・安全教育	①睡眠の質の向上に向けての促進を図る。 ②健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
担当	保健安全指導部	
体	キャリア教育	①3年間を見通したキャリア教育(職業講話・職業体験・校内高校説明会等)の構築、実践を行う。 ②今の「学び」が「将来」に繋がっていることを生徒に意識させ、キャリア形成を進められるよう各教科での取組を進めていく。 ③3年間を通して、自らの生き方や考える力を高め、自己理解を深められるよう指導を進める。
担当	キャリア教育推進部	
公開	ESDの推進	①SDGsの17の目標とのつながりを見つけ、知る・実践・振り返りを繰り返す行う。 ②学校全体で実践を意識的に行っていくようにする。 ③成果を発信する。
担当	ESD推進委員会	
いじめへの対応		学校独自で行う生活アンケートだけでなく、いじめアンケートやYPアセスメントなどを通して、確実に困り感のある生徒に気づく体制を整える。また、いじめの早期発見、早期解決に努め、生徒の気持ちに寄り添い、誰もが安心して学校生活が送れるようにする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		各ステージごとにメンターチームを組織し、ステージ1と担当の職員を中心に、月に一度自主研修を実施する。メンターチームの活動に積極的に参加できる体制にすることと、参加した職員の向上につながる内容にすることを意識する。学校全体で指導力向上への取組を積極的に進められるように全職員で取り組んでいく。
担当	企画会・教育課程・メンター	
生徒指導		①生徒一人ひとりが安心して過ごせる学校にするために、教育相談や個人面談などで生徒理解に努める。また、保護者との連携を密にし、生徒の特性に合わせた指導に努める。 ②学校全体のマナー向上を目的として、委員会活動を通して、教員や生徒の意識改革をしていく。
担当	生徒指導部	
特別支援教育		①個々の状況に応じた具体的な支援を、全教職員の理解のもと、組織的に実践していく。 ②個別支援やICT機器を活用し、すべての生徒に対して学びの保障を実践していく。 ③学習環境や指導方法について創意工夫をはかりながら自己肯定感を高めていく。
担当	特別支援教育推進委員会	
特別活動		①話し合い活動を積極的に実施し、考えを伝え合い、認め合う場面を増やし、生徒個々の交わりを深めていく。 ②リーダーが挫折感をもつことなく、自信をもって、行事を進められるよう、教職員が段階を追って、細やかに指導助言を行っていき、生徒たちが達成感を感じることでできる取組を多くする。
担当	特活指導部・体育祭委員会・合唱祭委員会	
地域学校協働活動		①学校運営協議会を運営し、地域代表と話をし、学校と地域が連携することの意義について共通理解を図る。 ②学校・家庭・地域連携事業を中心として、家庭や地域との繋がりを大切にしながら活動を活性化させる。 ③地域より人選した学校地域コーディネーターを窓口地域との協働を進める。
担当	教育課程・学校運営協議会	